

草津市中学校給食実施方式等検討委員会の審議経過

第 1 回草津市中学校給食実施方式等検討委員会	
開催日	平成 2 8 年 5 月 3 1 日 (火)
審議案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員委嘱および委員紹介について ・ 草津市附属機関設置条例および草津市教育委員会附属機関運営規則について ・ 委員長および副委員長の互選について ・ 諮問について ・ 草津市中学校給食実施基本計画の策定に向けて
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食法に掲げられている給食の目標へ到達させるために、どの実施方式がよいか、という観点で検討を行うということが重要である。 ・ 中学校給食の実施時期については、できるだけ早期に実施するべきである。 ・ 以前の中学校給食では、残食の多さも廃止理由の一つであったが、同じような理由で廃止にならないようにするべきである。 ・ 中学生は心身ともに不安定な時期になるので、中学校の教員からも意見を聞きながら進めていければと思う。 ・ 草津市の小学校給食は減塩給食などに取り組んでおり、全国にも紹介されている。小学校給食の良さが中学校給食でも踏襲されるとよい。

第 2 回草津市中学校給食実施方式等検討委員会	
開催日	平成 2 8 年 7 月 2 0 日 (水)
審議案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校給食の実施に向けた基本的な考え方について ・ 他自治体の事例調査結果について ・ 生徒数の推計、必要食数の設定について ・ 各中学校の現場確認結果について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校で既に草津らしい給食を実施しているのであれば、中学校給食を実施する際にはどのように踏襲しながら進めるかという点が、中学校給食における草津市らしさということにつながるのではないかと。 ・ より良い内容の給食を実施してほしいという思いはあるが、理想だけを掲げて、実際に学校現場がやりきれぬのかという不安もある。学校現場を総合的に支援するような視点も大切にしてほしい。 ・ 給食の負担を学校の先生だけに担わせてはいけない。中学校給食導入については、学校現場だけでなく、PTA、市民、市全体がどう責任を担うかという視点が必要。学校現場に過大な負担がかかり、教育内容にひずみが出てしまっているのは問題である。 ・ 自校方式はスペース確保の点などで厳しいという印象である。将来的に人口増加が見込まれることも考慮すると、現在の中学校施設内で自校方式が可能か疑問である。 ・ 小学校でセンター方式を実施しているので、センター方式の経験やノウハウがあるが、自校方式は食育的な良い面がある一方、コストやノウハウなどを考えると、今の草津市では自校方式よりセンター方式の方が合っているのではないかと。 ・ デリバリー方式なら保護者は自分で弁当を作った方がいいと思うだろう。